

## はじめに

令和4年答申には、教職生活を通じた「新たな学びの姿」の実現のなかで、主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても重要なロールモデルである。「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子どもたちの学びの転換とともに、教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要がある。（中略）教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探求的な学びを、研修実施者及び教師自らがデザインしていくことが必要になる。と、記述されています。（第1部総論「新たな教師の学びの姿」より一部抜粋）

私たちは、「新たな教師の学びの姿」を実現する第一歩が、これからの研修は参加者が「やらされ感」をもって受講するのではなく、「学びたいと思える研修」「受講してよかったと感じられる研修」であるべきと考えました。そこで、「対象者を限定し、研修講師と受講者が意見を交わしながら学ぶ研修、教育に特化した内容だけでなく、幅広い知識や教養に触れるような研修、また、少しリフレッシュできる研修」など内容面の検討を始め、働き方改革の観点から「時期や時間設定はこれでよいのか」など、時期・時間も含め検討してきました。まだまだ至らない点ばかりですが、少しでも「新たな教師の学びの姿」に近づけていきたいと考えております。また、研究事業では、喫緊の教育課題である不登校について「新たな不登校を生まない学校における視点」を研究主題として研究を進めております。来年度は、学校現場に足を運び先生方の実践力向上に繋がるよう研究を進めてまいります。

これからも教育研究所では、研修事業や研究事業により教師の学びを支える環境整備に努め、「教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師を目指そうとする者が増加し、教師自身も士気を高め、誇りを持って働くことができている」（令和3年答申 第1部 総論 教職員の姿）を目指し、皆様から信頼され頼りにされる教育研究所であるよう、研修および研究を進めて参ります。

最後になりましたが、今年度の研究所事業推進に際して、ご指導ご協力を賜りました多くの皆様に、心より感謝を申し上げます。

令和3年答申：「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、  
個別最適な学びと協働的な学びの実現～ （令和3年1月26日）

令和4年答申：「令和の日本型学校教育を担う」教師の養成・採用・研修の在り方について  
～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教師集団の形成～  
（令和4年12月19日）

令和7年3月

守山市教育研究所長 脇阪 久徳